

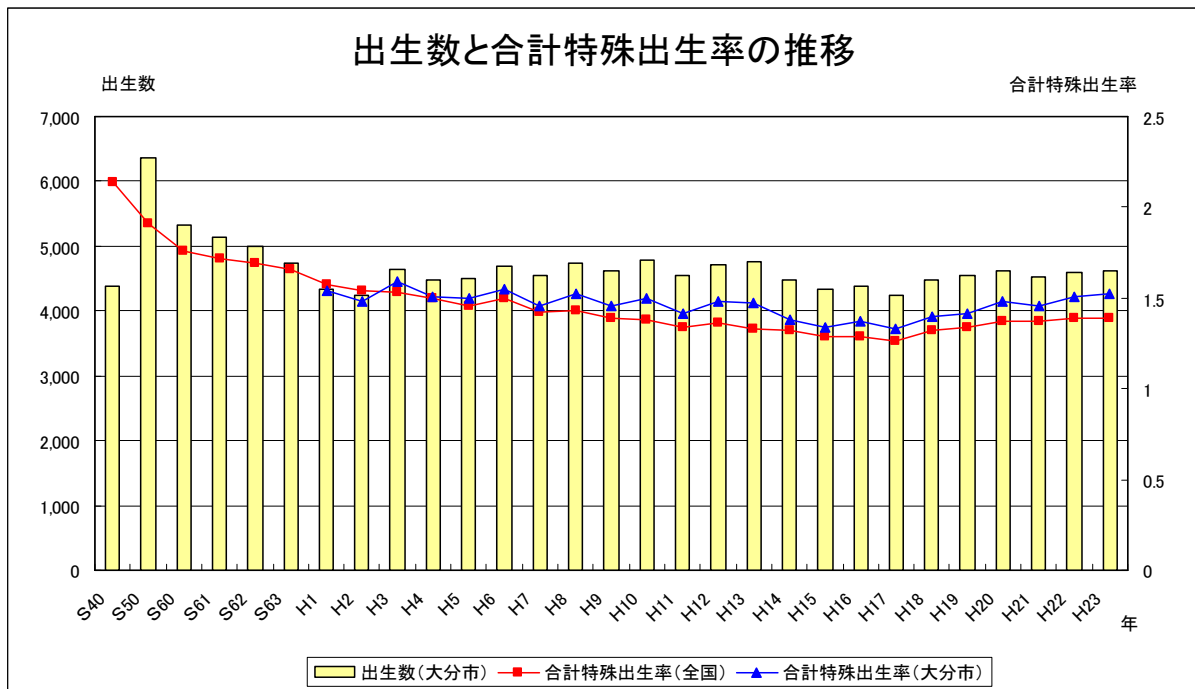
# 統計データ

- ① 出生数・合計特殊出生率の推移
- ② 人口推計と将来推計人口
- ③ 世帯人員の推移
- ④ 婚姻数・婚姻率と離婚数・離婚率の推移
- ⑤ 未婚率の推移
- ⑥ 女性の労働力率
- ⑦ 就学前の子どもを持つ夫の生活時間

平成26年1月28日  
大分市子育て支援課

## ①出生数・合計特殊出生率(※1)の推移

本市の出生数は、平成 18 年以降毎年およそ 4,500 人でほぼ横ばいの傾向にあります。また、本市の合計特殊出生率は、平成 17 年の 1.33 以降上昇傾向にあり、平成 23 年は 1.52 となっています。全国の 1.39 と比較すると 0.13 ポイント高くなっていますが、人口置換水準(※2)である 2.07 には及ばない状況であり、少子化の進行が予想されます。



出典: 出生数 大分市『大分市統計年鑑(平成 24 年版)』

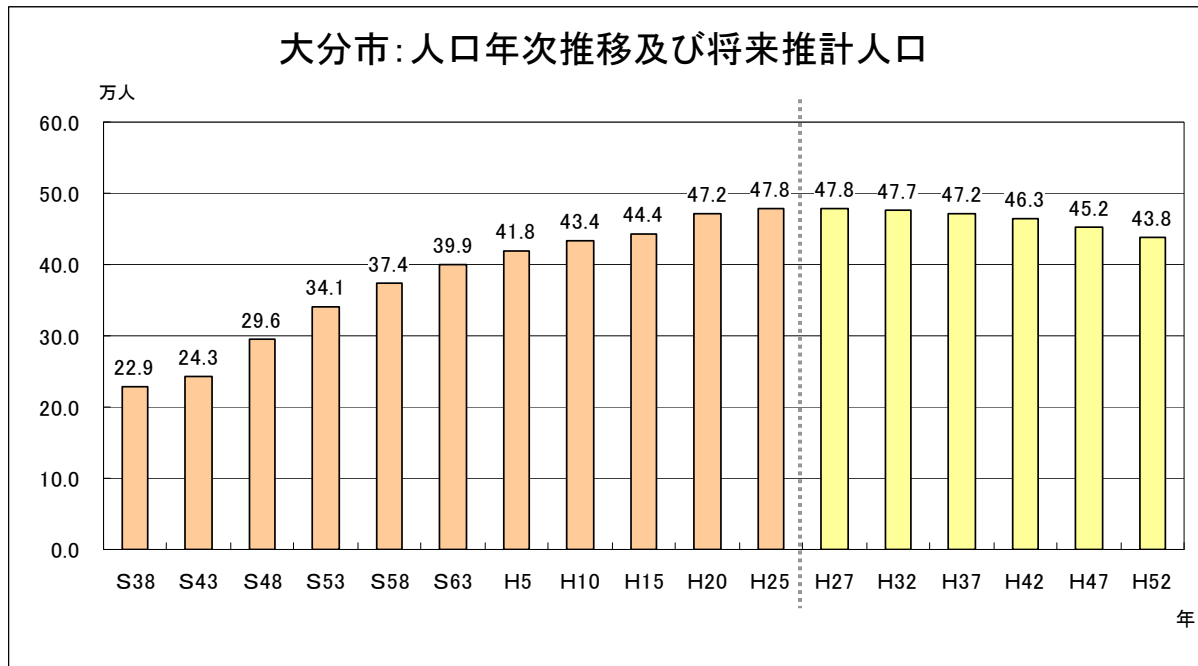
合計特殊出生率 厚生労働省『人口動態統計』、大分市保健所

※1 合計特殊出生率とは、15 歳から 49 歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

※2 人口置換水準とは、現在の人口を維持できる合計特殊出生率の目安のこと。国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2013)」によると、平成 23 年現在では、2.07 となっている。

## ②人口推計と将来推計人口

本市における人口の推移をみると、年々増加傾向にあり、平成 25 年 9 月末現在で 478,423 人となっています。しかし、国立社会保障・人口問題研究所によると、今後は減少が予測されており、本市にも人口減少社会の到来が予想されています。

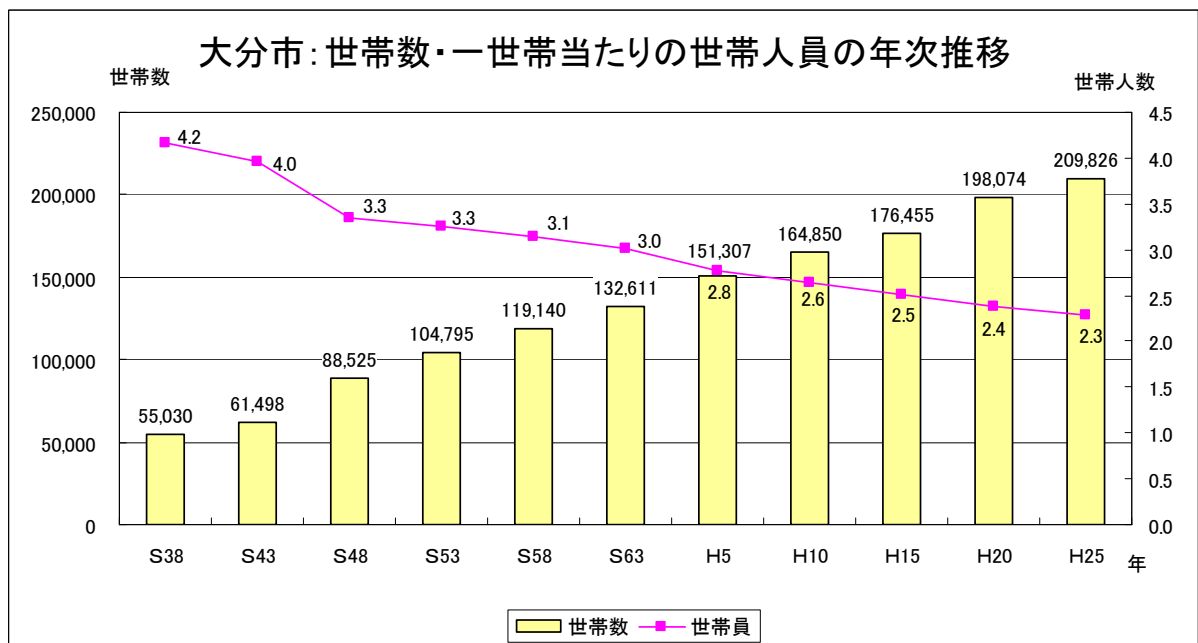


出典：実績値 大分市『住民基本台帳各年 9 月末』

推計値 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』(平成 25 年 3 月推計)

## ③世帯人員の推移

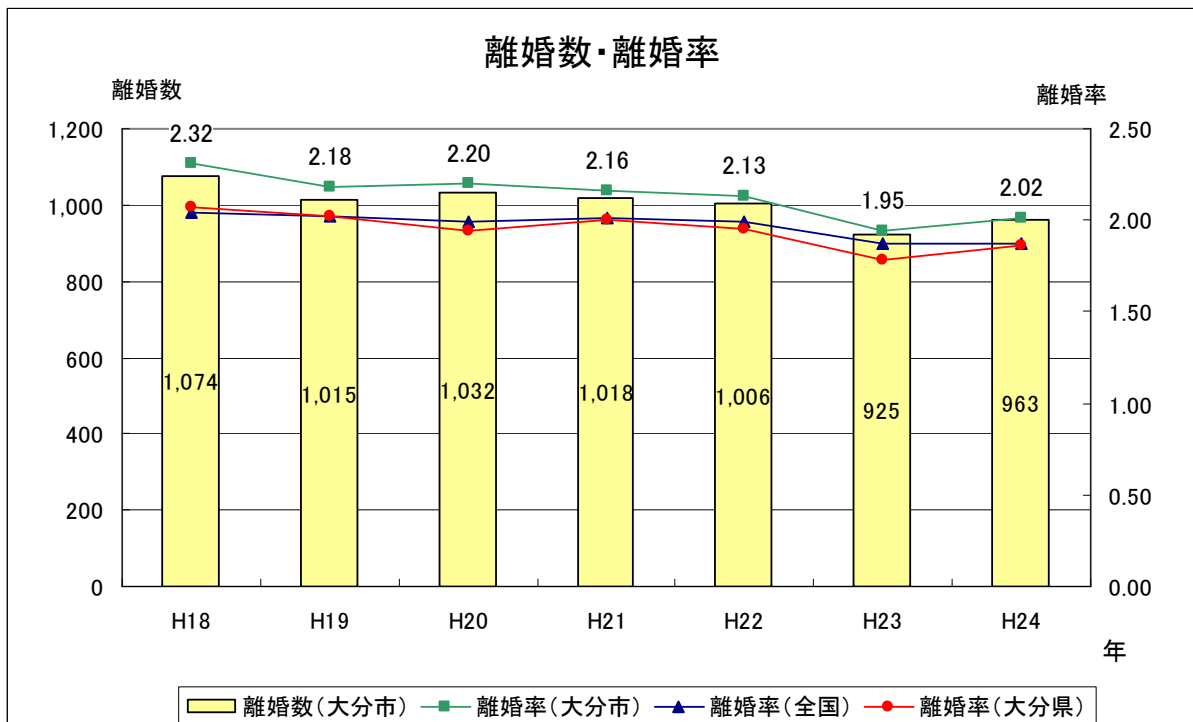
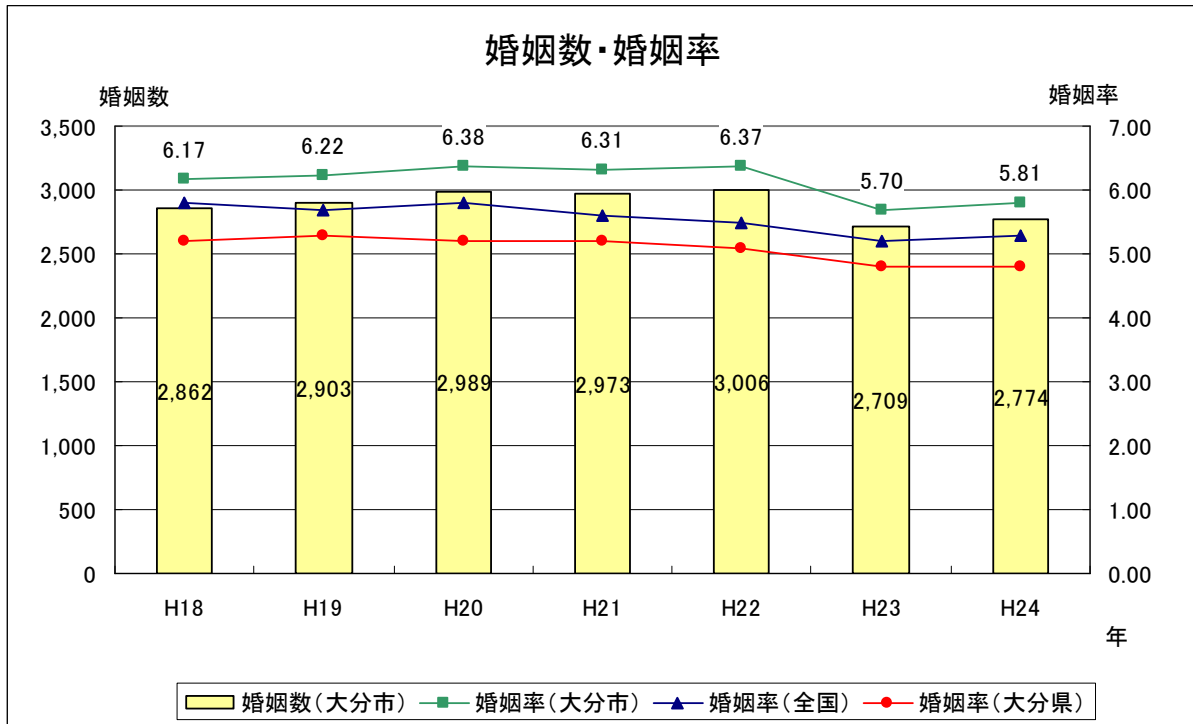
本市の世帯数は、一貫して増加傾向にあり、平成 25 年 9 月末現在は 209,826 世帯となり、昭和 38 年と比較するとおよそ 4 倍となっています。一方、一世帯当たりの人員は年々減少傾向にあり、平成 25 年 9 月末現在は、昭和 38 年と比較しておよそ半数の 2.3 人となり、核家族化が進行しています。



出典：大分市『住民基本台帳各年 9 月末』

#### ④婚姻数・婚姻率と離婚数・離婚率の推移

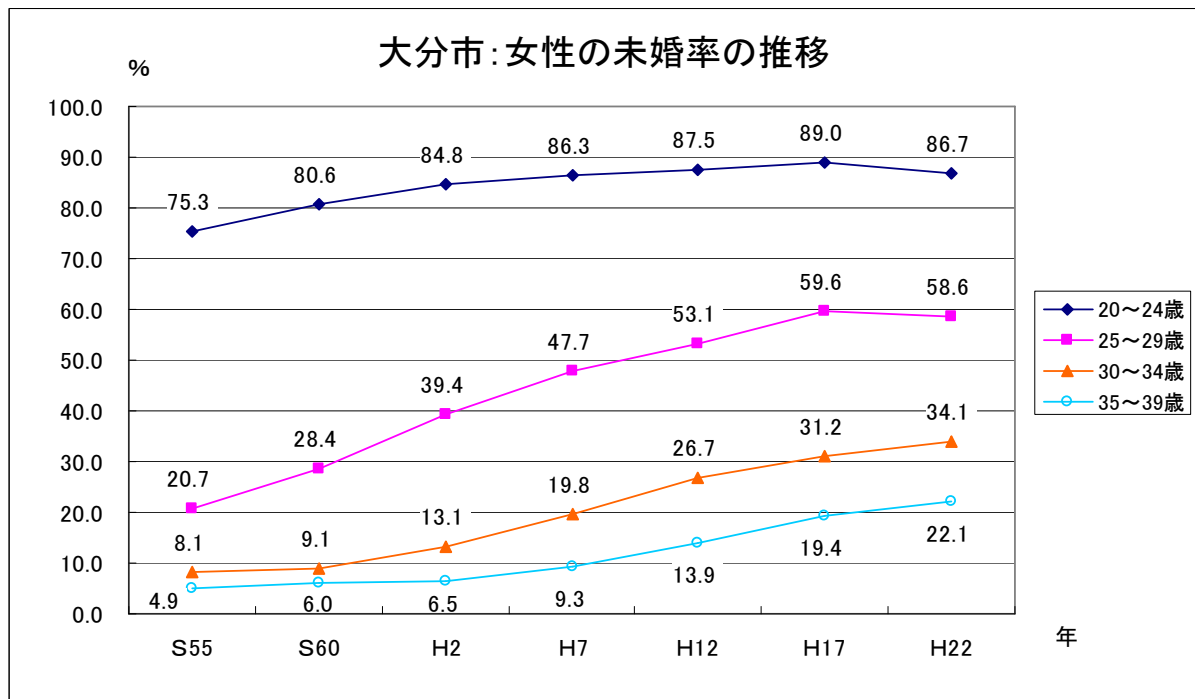
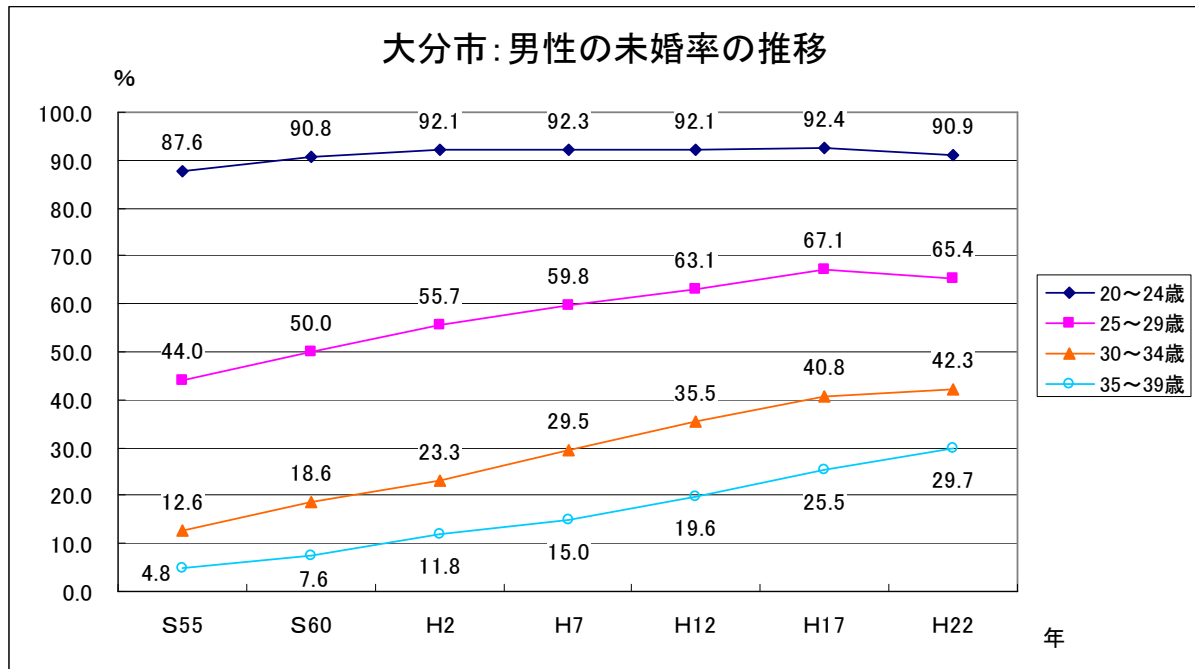
本市の平成24年の婚姻数および離婚数は、平成23年と比較すると若干増加傾向にあります。平成22年以前と比較すると、減少しています。また、平成24年度の婚姻率および離婚率は、平成22年以前と比較すると低くなっていますが、全国や大分県と比較すると、一貫して高い傾向にあります。



出典:大分市『大分市統計年鑑(平成24年版)』、厚生労働省『人口動態統計』

### ⑤未婚率の推移

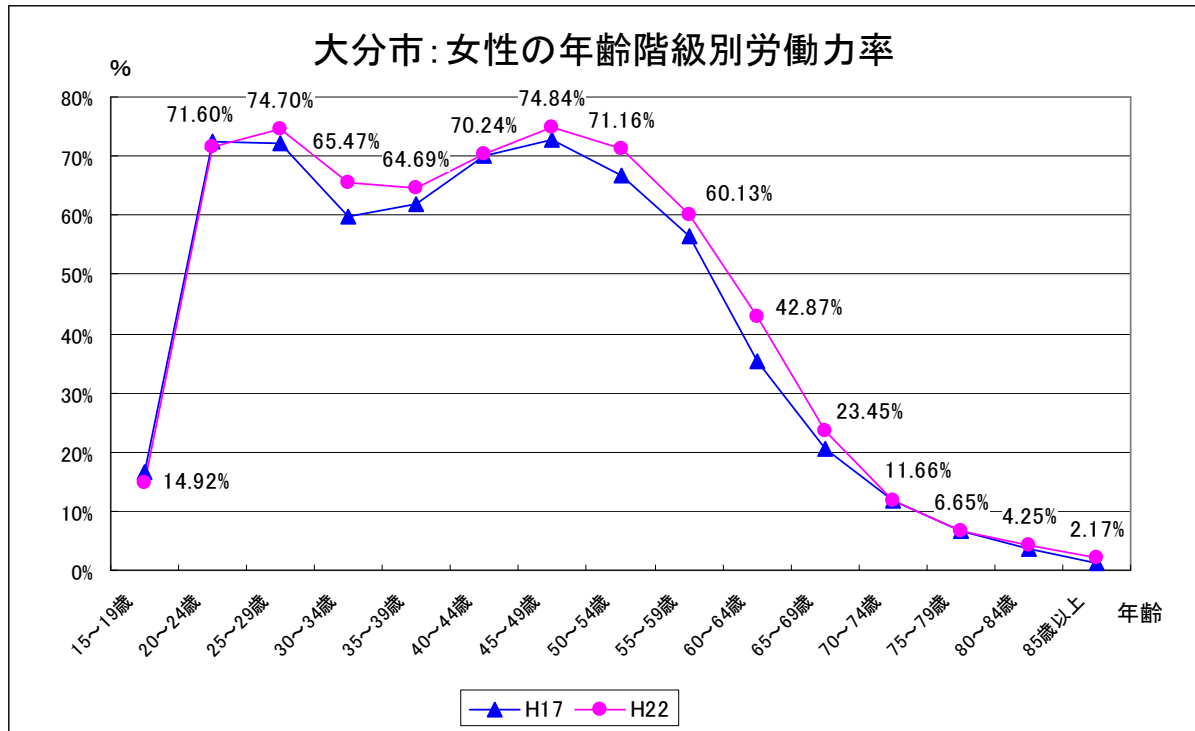
本市の年齢5歳階級別未婚率は、平成17年と平成22年を比較すると、男性も女性ともに20歳代は若干下降しており、30歳代は上昇しています。最も上昇が大きいのは、男性では35～39歳で、4.2ポイント上昇しています。また、女性では30～34歳で、2.9ポイント上昇しており、未婚化や晩婚化が進行しています。



出典：総務省統計局『国勢調査』

## ⑥女性の労働力率

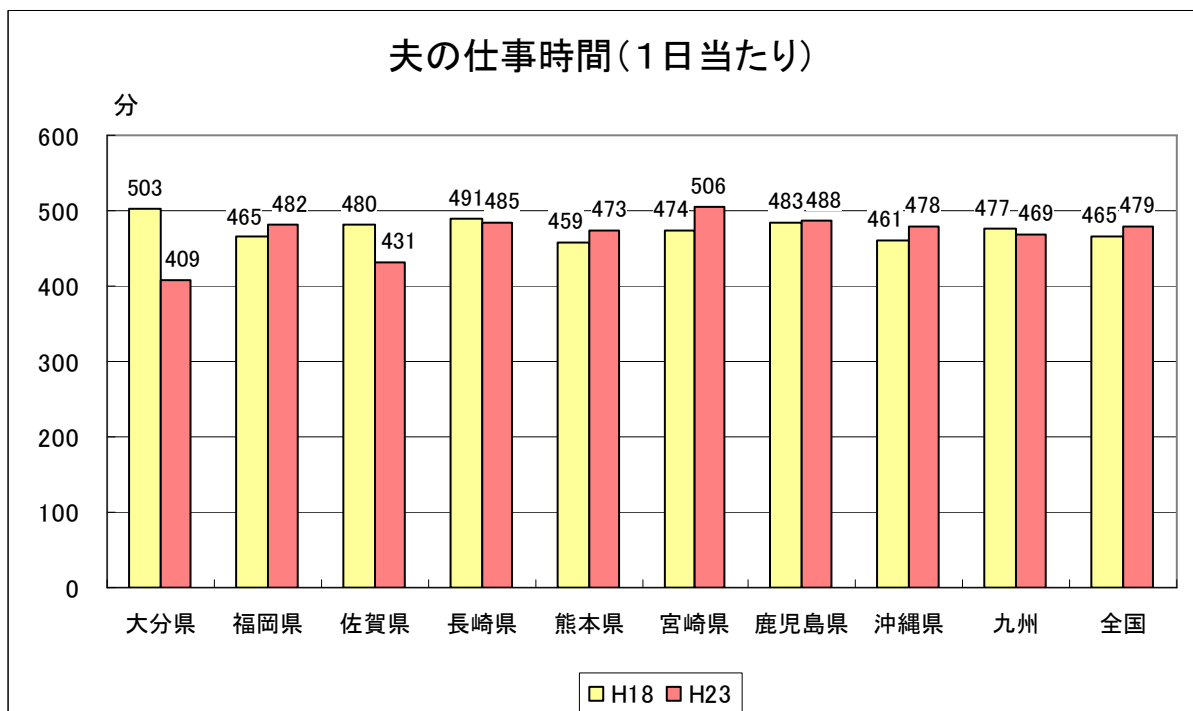
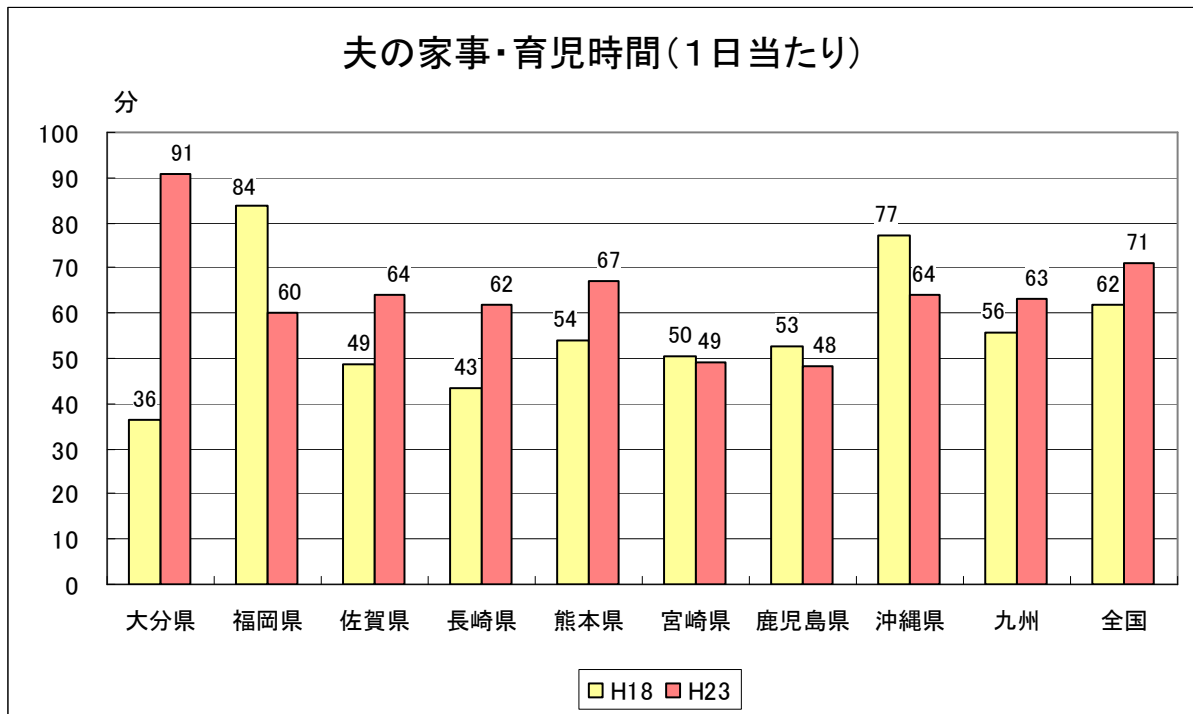
本市の女性の年齢5歳階級別労働力率は、平成17年と平成22年を比較すると、15～24歳および70～74歳を除いたすべての年齢層で上昇しており、女性の就業が進行しています。また、M字曲線の底辺の年齢が、平成17年では30～34歳ですが、平成22年では35～39歳と年齢層が高くなっており、晩婚化や晩産化が進行しています。



出典：総務省統計局『平成22年国勢調査』

## ⑦就学前の子どもを持つ夫の生活時間

大分県は、就学前の子どもを持つ夫の家事・育児時間(1日当たり・週平均)が平成18年と平成23年を比較すると、55分増加しています。伸び幅は全国一となっており、男性の育児参加が進んできています。一方、仕事時間は、全国では増加していますが、大分県では94分減少しています。



出典:総務省『社会生活基本調査』